

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
36401	色彩と表現 Color and Express	山中 マキ			2	選択	1.2前期

科目の概要

・色の持つ物理的側面・心理的側面・デザインの側面を講義形式による理論の説明と共に、配色カードを用いた演習形式による指導を行い、色彩の基礎を習得する。
 ・色彩を系統的に学ぶことにより、それぞれの目的によって客観的に色彩を使いこなせる実践能力を習得する（DP②と③に相当）。
 ・講義を通し、色彩検定3級レベルの知識を習得することを目的とする。
 ・授業を通して、建学の精神・社会人基礎力・p i s a型学力を身に付け、更に潜在能力開発にも努める（DP①と④に相当）。

学修内容	到達目標
① 色彩の本質を物理的な視点から理解し、客観的に色彩選択ができることを目的とする。（DP①②） ② 色彩を感じ取る人間側について理解し、的確な色彩選択ができることを目的とする。（DP①②） ③ 色彩を組み合わせた場合の効果について理解し、適材適所な色彩選択ができることを目的とする。（DP②③） ④ 講義で学んだ内容を、配色カードを用いて自ら表現できるようにすることを目的とする。（DP②③） ⑤ 市場に流通している商品の色彩分析の仕方を理解する。（DP①④）	① 色彩の本質を物理的な視点から理解することができ、客観的な色彩選択ができる。（DP①②） ② 色彩を感じ取る人間側について理解することができ、的確な色彩選択ができる。（DP①②） ③ 色彩のデザインの側面を理解することができ、適材適所な色彩選択ができる。（DP②③） ④ 自ら配色カードを使用し、講義で理解した内容を色で表現することができる。（DP②③） ⑤ 市販されている商品の色彩分析をし、なぜその色が用いているのかを考察することができる。（DP①④）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	単にテキストを丸暗記するだけでなく、学んだことを実社会に応用できるよう常に意識をすることができる。課題をするのに必要な知識について、教科者・文献を使って自己学習することができる。
	働きかけ力	理解できない内容があった場合、それを質問することができる。
	実行力	定められた期限内に提出課題を仕上げる為に、目標を決め最後までやりきることができる。
考え抜く力	課題発見力	生活の中で出会う様々な色彩を常に意識し、疑問や課題を持ちながら解決方法を探る姿勢で授業に臨むことができる。
	計画力	
	創造力	固定概念や自己の経験のみで判断せず、学んだ基礎知識を提出課題や作品に応用し、自ら考えて創造することができる。
チームで働く力	発信力	提出課題や作品では、求められている色彩表現を誰もが分かりやすい色彩表現と言葉で、客観的に行うことができる。
	傾聴力	グループワークで人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるすることができる。
	柔軟性	自分と他者の作った配色の違いを通して、自他共に感性や考えの違い等を受け入れることができる。
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

■色彩検定公式テキスト3級編（内閣府認定公益社団法人色彩検定協会：ISBN978-4-909928-03-0）2,420円（税込）
 ■新配色カード199a（日本色研事業）1,375円（税込）
 ※他に工作用のハサミとノリを各自持参。

他科目との関連、資格との関連

（他の科目との関連）ファッションビジネス論、ブライダル演習、基礎デザイン等
 （資格との関連）『色彩検定（3級）』に対応

学修上の助言	受講生とのルール
講義内では投影したPowerPointの資料を基に配布プリントに重要ポイントを記入する方式で進めるが、講義後は必ずテキストの該当ページを熟読し、理解を深めること。	・欠席者はClassroomにアップする当日の内容を元に、配布プリントの重要ポイントを記入し、翌週の授業に臨むこと。 ・やむを得ない理由があり課題提出が遅れる場合は必ず理由と提出予定日を申し出ること。 ・授業で配布した資料とテキスト、配色カード・ノリ・ハサミは毎時間持参すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		35	①	✓	■ 授業で学修した内容を翌週にチェックテストとして毎回5問ずつ出題する。全10回。 ・ 授業内容の理解度を問う ・ 答案用紙を回収後すぐに解答と解説を行い、理解を深める
					②	✓	
					③	✓	
					④		
					⑤		
		レポート		45	①	✓	■ 課題①「対比」 ■ 課題②「色彩調和」 ■ 課題③「配色イメージ」 ・ 授業で学んだ配色方法をもとに、与えられた条件に合う色を自ら選択することができるか、また、単にカードを選んで貼るだけでなく、見た相手を説得できるように見た目に美しく丁寧に貼れているかも評価対象とする ・ 全3回実施 ・ 授業内で作成し、完成できなかった場合は宿題とする
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		10	①		・ これまで学習してきた内容を用い、市販されている商品パッケージの色彩分析を行う ①使用されている色を面積比で抽出する ②受ける印象をイメージマップにプロットする ③使用されている技法とその効果を分析及び考察する ④その商品のターゲットを推測する ⑤A4のプレゼンテーションシートにまとめる 以上①～⑤の工程を達成度に応じて評価すると共に、実生活で応用できる力を身に付けることを目的とする		
			②				
			③				
			④				
			⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	【主体性】 単にテキストを丸暗記するだけでなく、学んだことを実社会に応用できるように常に意識することができる。 【働きかけ力】 理解できない内容があった場合、質問することができる。 【実行力】 期限までに提出課題を仕上げる為に、目標を決め最後までやりきることができる。 【課題発見力】 生活の中で出会う様々な色彩を常に意識し、疑問や課題を持ちながら授業に臨むことができる 【創造力】 学んだ基礎知識を提出課題や作品に応用し、自ら考えて創造することができる 【発信力】 提出課題や作品では求められている色彩表現を、誰もが分かりやすく客観的に行うことができる 【傾聴力】 グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる 【柔軟性】 テキスト通りではない実例に出会った際、なぜその配色にしたのかを別の側面から考察することができる。また、自分と他者の作った配色の違いを通して、自他共に感性や考えの違いを受け入れることができる 【規律性】 遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>■ S (秀) の基準：総合得点が100～90点</p> <p>①小テスト：授業で学修した内容を完全に理解し、理論的に説明することができる（正解率9割以上） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を配色カードから選択し、美しく貼ることができる ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を客観的に分析および考察することができる （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測が全てが完成されている。さらにそれをテキストの記述を応用した自分の言葉で分かりやすく説明することができる）</p> <p>■ A (優) の基準：総合得点が89～80点</p> <p>①小テスト：授業で学修した内容をほぼ理解し、自分の言葉で説明することができる（正解率8～9割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を配色カードから選択し、丁寧に貼ることができる ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測が、おおむね完成されている。さらにそれをテキストにある言葉を用い説明することができる）</p>	<p>■ B (良) の基準：総合得点が79～70点</p> <p>①小テスト：授業で学修した内容をだいたい理解し、答えを選択肢の中から選ぶことができる（正解率7～8割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を配色カードから選択し、確認して貼ることができる ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測のうち、空欄の箇所が無いこと）</p> <p>■ C (可) の基準：総合得点が69～60点</p> <p>①小テスト：授業で学修した内容を理解しようと努力している（正解率6～7割） ②レポート：【提出課題①～③】与えられた条件に合う色を配色カードから選択し、貼ることができる ③成果発表：これまで学習してきた内容を用い、色彩を分析および考察することができる （・色の抽出・面積比・イメージマップへのプロット・配色技法とその効果・ターゲットの推測のうち、7割以上は埋めてあること）</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	■ガイダンス ・色彩を学ぶ意義 ・色彩検定の紹介 ■色が見える仕組み① ・色知覚の三要素のうち、『光』『物体』の性質について学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する ■実験 ：回折格子を用い、白色光を分光してスペクトルを確認する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色知覚の三要素のうち、『光』と『物体』の性質について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp6～18を読み、講義用プリント(1)～(4)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント①	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
2	■色が見える仕組み② ・色知覚の三要素のうち、『視覚』について学ぶ。 ・『照明』の種類と色の見え方について学ぶ。	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する ■実験 ：自らの眼を用いて盲点の確認をし、脳が視覚に及ぼす影響について理解する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色知覚の三要素のうち、人間の『視覚』について理解できる ・照明の違いによって物体の見え方が変化するメカニズムを理解できる ・配布プリントに重要語句を記入できる	<予習>テキストp19～23を読み、講義用プリント(5)～(8)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント②	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
3	■色が見える仕組み③ ・『混色』の種類とメカニズムを理解し、どのように実生活に応用されているかを知る	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する ■実験 ：LEDで三原色を用いた同時加法混色、簡易顕微鏡を用いた併置加法混色、回転コマを用いた継時加法混色、カラーフィルムを用いた減法混色の実験を行い、混色の原理と応用方法を学ぶ。 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・混色の原理と実際の活用方法について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp24～30を読み、講義用プリント(9)～(12)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント③	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
4	■色の表し方① ・『慣用色名』について学ぶ。 ・『表色系(三属性)』について理解する。	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、三属性(色相、明度、彩度)について理解を深める ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色の伝え方には様々な方法があることを知り、それぞれのメリット・デメリットまで考えることができる ・配布プリントに重要語句を記入できる	<予習>テキストp128～139、p32～38を読み、講義用プリント(13)～(16)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント④	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	■色の表し方② ・『PCCS(日本色研配色体系)＜色相と色相環＞』について学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、PCCS色相環を作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	PCCSの概要、色相について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp39～41を読み、講義用プリント(17)(19)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>PCCSの色相を覚える	180	主体性 働きかけ力 実行力 規律性
6	■色の表し方③ ・『PCCS(日本色研配色体系)＜明度・彩度・トーン＞』について学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、PCCSトーンを作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	PCCSの明度・彩度・トーンについて理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる	<予習>テキストp42～48を読み、講義用プリント(18)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント⑤、PCCSのトーンを覚える	180	主体性 働きかけ力 実行力 規律性
7	■色の心理効果 ・『寒・暖/進出・後退/膨張・収縮/硬・軟/軽・重/興奮・鎮静/派手・地味』と関係する三属性 ・『色の連想と象徴』について学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■事例紹介 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色が人間に与える心理効果について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる	<予習>テキストp50～57を読み、講義用プリント(23)～(24)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>復習プリント⑥	180	主体性 働きかけ力 課題発見力 発信力 柔軟性 規律性
8	■色の視覚効果① ・『補色残像』のメカニズムを学ぶ ・『対比』人間の知覚特性を理解し、それによって引き起こされる現象を学ぶ。	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、『明度対比』『彩度対比』『色相对比』『補色対比』を自ら色を選択して作成 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・人間の知覚特性について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp58～61を読み、講義用プリント(25)～(28)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>提出課題①「対比」完成	180	主体性 働きかけ力 実行力 創造力 発信力 柔軟性 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	■色の視覚効果② ・『色陰現象』『縁辺対比』『同化』『面積効果』『主観色』 人間の知覚特性を理解し、それによって引き起こされる現象を学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ： ・配色カードを使用し『色陰現象』『縁辺対比』を作成 ・ペンハムトップを使用し『主観色』を観察 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・人間の知覚特性について理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。 ・提出課題①「対比」を完成させ提出できる	<予習>テキストp62～67を読み、講義用プリント(28)～(29)にキーワードを記入して授業に臨むこと。 <復習>復習プリント⑦	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 柔軟性 規律性
10	■色彩調和① ・『4つの原理』 ・『色相を手がかりにした配色』 配色のルールを学ぶことで、客観的に求めるイメージや目的にあった配色を作ることができるようになる	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、条件に合った配色を自ら作成する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色彩調和の基本型を理解し、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp70～83を読み、講義用プリント(31)～(32)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習> 提出課題②「色彩調和」完成	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 柔軟性 規律性
11	■色彩調和② ・『トーンを手がかりにした配色』 配色のルールを学ぶことで、客観的に求めるイメージや目的にあった配色を作ることができるようになる	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■実習 ：配色カードを使用し、条件に合った配色を自ら作成する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色彩調和の基本型を理解し、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp84～91を読み、講義用プリント(32)～(33)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習> ・復習プリント⑧ ・提出課題②「色彩調和」完成	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 柔軟性 規律性
12	■色彩調和③ ・『アクセントカラー』『セパレーション』『グラデーション』 基本的な配色技法を身に付け、見やすい配色、美しく感じる配色を表現できるようになる ■『ファッションと色彩』 ・配色技法がファッションにおいてどのように活用されているのかを学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■配色カード を使用し、条件に合った配色を自ら作成する。 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色彩調和の基本型と実際の使われ方(ファッション)を理解し、配布プリントに重要語句を記入できる。 ・基本的な配色技法を覚え、自ら作ることができる ・提出課題②「色彩調和」を完成させ提出できる	<予習>テキストp92～97、p110～115を読み、講義用プリント(34)～(37)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>復習プリント⑨	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 柔軟性 規律性
13	■『配色イメージ』 ・配色から受けるイメージを、色の三属性やトーンから考えることで客観的にイメージの再現ができるようになる	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■配色カード を使用し、条件に合った配色を自ら作成する ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・色の三属性やトーンをどのように変化させると、どのようなイメージになるのかを理解し、基本にそってアレンジができる。 ・提出課題③「配色イメージ」を完成させ提出できる	<予習>テキストp104～107を読み、講義用プリント(38)～(39)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>提出課題③「配色イメージ」完成	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
14	■『インテリアと色彩』 ・これまで学んできた色彩の基礎知識を、住環境の中でどのように活用するかを学ぶ	■講義 ：テキストに沿った内容でPowerPointの資料を投影、説明と解説を行う。学生は配布プリントに重要語句を記入する。 ■事例紹介 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応	・インテリアにおいてどのように色彩が活用されているかを理解でき、配布プリントに重要語句を記入できる。	<予習>テキストp118～125を読み、講義用プリント(40)～(43)にキーワードを記入して授業に臨むこと <復習>復習プリント⑩	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 規律性
15	■『パッケージの色彩分析実習』 ・市販されている商品パッケージの色彩分析を通し、色が人間に与える影響(視認性・誘目性・識別性・イメージ)を考察する	■講義 ：1つの商品のパッケージデザインから、買手に与える色からの情報を読み取る方法を解説 ■実習 ：説明に従い、自ら選んだ商品パッケージの色彩分析を行う。「使用色の抽出と面積比」「イメージ調査」「配色技法とその効果を考察」「ターゲットの推測」 ⇒作成した分析シートは写真を撮ってClassroomにて提出 ■質疑 ：GoogleClassroomにて対応 ■フィードバック ：提出された課題は講師から評価とコメントを添えて個別に返却	・分析シートを完成して期限内に提出することができる	<予習>市販されているお菓子を購入する際、店頭で置かれている状況(ライバル商品、シリーズ商品の色など)をリサーチする <復習>提出課題で終わらず、常に目に入る色に対して分析と考察を繰り返すし、それを応用して実生活に取り入れる ※イメージ分析の際に用いる参考資料として：日本カラーデザイン研究所「イメージスケールシステム」⇒ http://www.ncd-ri.co.jp	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力